



N-1 大阪国際会議場
グランキューブ大阪
平成12年オープン。国際交流施設です。メインホールや特別会議場などを備え、高層レストランやカフェなどもあり、レストスポットとしても利用できます。

N-2 大阪市立科学館
湯川秀樹博士が研究した大阪大学理学部の跡地に、「宇宙とエネルギー」をテーマに開設された科学館です。曲面の建物は惑星の軌道をイメージしたものです。

N-3 国立国際美術館
新しい美術館は内部が吹き抜けの完全地下型の構造で、エントランスには現代美術の発展・成長をイメージしたオブジェが設けられています。



N-4 淀屋橋
最初の淀屋橋は、江戸時代の豪商淀屋が架けたと伝えられています。市民に人気の高い橋で、周辺には多くの文化財や史跡があります。

N-5 中央公会堂
改修工事をすませ、平成14年11月に再デビューした中之島のシンボルです。特別室の天井の「天地開闢(かいびやく)」も見所です。

N-6 東洋陶磁美術館
中国陶磁・韓国陶磁を中心に展覧する、世界的にも珍しい美術館です。国宝2点と重要文化財13点を含む約2,700点を収蔵しています。

N-7 中之島公園
大川が分流する中之島一帯は、水の都・大阪を代表する風景となっています。中之島を挟んで軽快なアーチの天神橋が架けられ、風景にアクセントを与えています。

大川・寝屋川の水辺に近い見所



O-1 大阪アメニティパーク
オフィス、ホテル、住宅などが建てられ、大きな公開空地が確保されています。

O-2 泉布観
「泉布」とは貨幣の意味。明治4年、造幣局の応接所として洋館が建てられました。

O-3 ユースアートギャラリー
重みのある石造りの玄関は、造幣局の正面玄関を移築したものです。

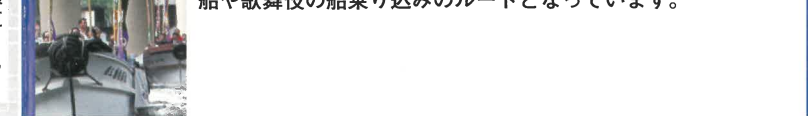
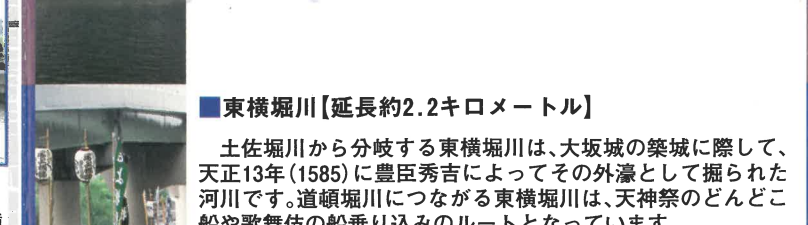
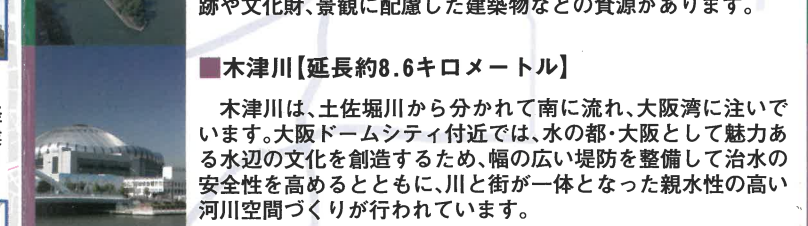
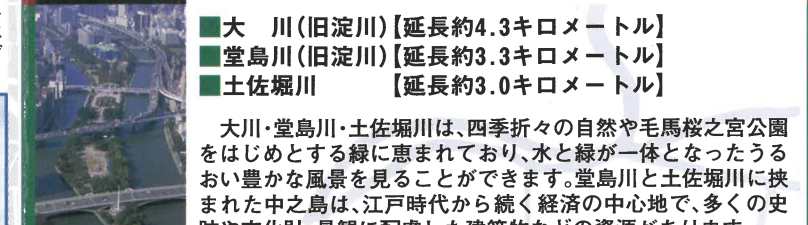
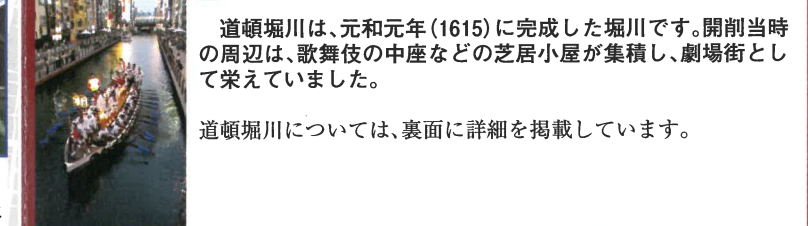


O-4 毛馬桜之宮公園
大川の両岸に広がる公園で、桜の名所としても親しまれています。

O-5 大阪城
360度パノラマの展望台からは、約107haにもおよぶ大阪城公園が望めます。

O-6 大阪ビジネスパーク
近代的なビルと緑、川が一体となって美しい風景を創り出しています。

大阪の都心を口の字型に流れる川



D-4 戎橋
1日に10万人以上の歩行者が利用し、大阪ミナミの賑わいを象徴する橋です。平成19年完成。

D-5 とんぼりリバーウォーク
活気あふれる繁華街「ミナミ」を横断する道頓堀川沿いの遊歩道です。夜間には、沿川のネオンが川面を彩り、美しい夜景をつくり出します。

D-6 国立文楽劇場
国立文楽劇場は、文楽(人形浄瑠璃)を中心に邦楽や舞踊、舞楽、太鼓、浪曲、上方歌舞伎といった上方の伝統芸能を上演する劇場です。

H-1 高麗橋
江戸時代に交通の要所など重要地点に架けられ、幕府が直接管理する橋を公儀橋と呼んでいました。高麗橋は公儀橋の中でも特に重要視されていました。

H-2 東横堀川水門
平成13年3月に完成した水門で、道頓堀川水門対になって機能しています。水門の詳しい内容は裏面をご覧ください。

H-3 β本町橋
令和3年8月にオープンした水辺の賑わい施設です。SUP等の水上アクティビティを体験できるほか、様々なイベントを開催しています。

H-4 大阪産業創造館
大阪産業創造館は、大阪市経済局の中小・ベンチャー企業支援拠点として、平成13年1月に開業しました。

H-5 本町橋
現役の橋としては、大阪市内最古の橋で、豊臣秀吉が大坂城築城に際して、東横堀川を外堀として開削した時に架けられたと考えられています。

H-6 上大和橋周辺
上大和橋は、道頓堀川と東横堀川の境界となる橋です。直角に曲がることで変わる風景は、乗船時の見所でもあります。

道頓堀川【延長約2.7キロメートル】
道頓堀川は、元和元年(1615)に完成した堀川です。開削当時の周辺は、歌舞伎の中座などの芝居小屋が集積し、劇場街として栄えていました。
道頓堀川については、裏面に詳細を掲載しています。

大川(旧淀川)【延長約4.3キロメートル】
堂島川(旧淀川)【延長約3.3キロメートル】
土佐堀川【延長約3.0キロメートル】
大川・堂島川・土佐堀川は、四季折々の自然や毛馬桜之宮公園をはじめとする緑に恵まれており、水と緑が一体となったうるおい豊かな風景を見ることができます。堂島川と土佐堀川に挟まれた中之島は、江戸時代から続く経済の中心地で、多くの史跡や文化財、景観に配慮した建築物などの資源があります。

木津川【延長約8.6キロメートル】
木津川は、土佐堀川から分かれて南に流れ、大阪湾に注いでいます。大阪ドームシティ付近では、水の都・大阪として魅力ある水辺の文化を創造するため、幅の広い堤防を整備して治水の安全性を高めるとともに、川と街が一体となった親水性の高い河川空間づくりが行われています。

東横堀川【延長約2.2キロメートル】
土佐堀川から分岐する東横堀川は、大坂城の築城に際して、天正13年(1585)に豊臣秀吉によってその外濠として掘られた河川です。道頓堀川につながる東横堀川は、天神祭のどんどこ船や歌舞伎の船乗り込みのルートとなっています。